

特定非営利活動法人 ワールド・ビジョン・ジャパン 2014年度 夏期募金による活動報告書

募金件数:8,033件

総募金額:57,665,630円

対象期間:2013年10月1日～2014年9月30日

皆さまからいただきました夏期募金により、南スーダン、ソマリアやコンゴ民主共和国などアフリカ諸国で、紛争、HIV/エイズ、マラリアなどで苦しむ子どもたちへの支援を行うことができました。感謝とともに、ご報告いたします。

南スーダンの子どもたちに 希望の火をともし

南スーダン



支援地域の状況

事業地のあるアッパーナイル州ファショダ郡およびワラップ州トゥイッチ郡は、昨年12月に発生した南スーダン人道危機の結果、多くの国内避難民が避難した地域です。

ワールド・ビジョン・ジャパン(以下、WVJ)は、昨年12月までアッパーナイル州で、水・衛生環境改善の支援を実施していましたが、危機発生により、環境が再び悪化してしまいました。多数の避難民が流入したためにさらに安全な水が手に入りにくくなり、トイレの数の著しい不足により外で用を足す人が増えたことなどで水が汚染され、その水を飲むことで感染症が蔓延する事態となりました。また、ワラップ州トゥイッチ郡では、多くの井戸が壊れて使えず、流入した避難民たちは安全な水を手に入れることが困難となっています。

子どもたちの中には、武力衝突で家族や友人を亡くしたり、避難中に親や親戚などの保護者と離れ離れになったりすることで心が傷つき、不安な中で日々を過ごしており、恐怖におびえている子どもが少なくありません。また、避難場所では、子どもたちは安全に遊ぶ場所もなく、精神的なストレスを抱えています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

■水・衛生支援

アッパーナイル州ファショダ郡コドック村で、避難民に、浄水剤、バケツ、貯水容器、浄水布などを配布しました。これにより、人々は浄水剤でろ過した川の水を利用できるようになりました。また、人々の避難先となっている学校・教会・病院に水浄化フィルターを150基配布し、川沿いには水浄化システムを2基設置しました。このシステムにより約2,000人に安全な水を供給することが可能になりました。これらの支援を通して、避難民だけでなく、もともとその地域で暮らす住民も安全な水の利用が可能になり、約29,700人の生活が改善されました。

ワラップ州トゥイッチ郡でも、避難民が安全な水を手に入れることができるように、壊れて使えない井戸を修復し、その維持



水浄化システムのそばで、WVスタッフに感謝を伝えるニヤバックさん

管理を担当する委員会の設置、井戸修理工の養成、修理した井戸の水質検査などを実施しました。

また両州において、トイレの利用や手洗い、清掃などの衛生に配慮した習慣を身につけるよう、避難民や地域住民に啓発を行い、この習慣の普及を進めるために避難民の中から衛生ボランティアを養成しました。また、子どもで構成する衛生クラブを設置し、子どもたちの衛生に関する意識を高めることに貢献しました。

■子どもの保護、人々の権利を守るための支援

武力衝突で家族や知人を失い心が傷ついたり、避難生活の中で精神的苦痛を受けたりした子どもたちが安心して過ごす場所を提供しました。避難民の居住地の中に3カ所設置し、毎回、600人以上の子どもたちが参加し、落ち着きを取り戻すことが可能となりました。

また、地域住民や避難民に、人権や子どもの権利、異なる民族同士の平和的な共存を実現するための啓発を行いました。啓発は、それらを学んだ人々から選んだメンバーにより、保護者や地域のリーダーを対象に広がりました。

青少年に対しては、武装勢力からの勧誘など子どもの安全を脅かしている要因をなくすためのアイデアなどを話し合いました。その結果、人々や子どもたちの権利が脅かされたときにはすぐに被害者を保護できるように、住民リーダーと警察に通報できる仕組みを作りました。さらに、子どもが相談できる場所としてヘルプデスクを設け、健康に問題をかかえる子どもや親が殺された子ども、怪我をした子どもなどからの相談に対処できるようになりました。



子どもたちのためのイベント「ハッピーアワー（幸せな時）」を開催し、困難な生活の中で、大勢の子どもたちがひと時ゲームなどで楽しく過ごしました

担当:田中スタッフより

南スーダンの避難民の6割が女性と子どもといわれています。私たちWVJスタッフは、治安悪化により南スーダンへの入国が困難となり、2014年3月～9月までの間、国内で活動している現地スタッフの事業監理を隣国ケニアから行いました。

水浄化システムなどが地域の人にとっても喜ばれ、配布した物資が実際に利用されていることも確認できました。皆さまの支援で行ったことが、中期的にも避難民や地域住民の生活の中で役に立っていることをお伝えします。

コドック村のゴロ難民キャンプで避難生活を送る、チャマ・タバブさん(30歳)とバシル・ベイドさん(45歳)から、支援の感謝の声が届きました。「キャンプに 来た当初、私たちはナイル河の水を飲んでいました。下痢になる人も多かったのですが、今ではめったにいません」8人の子どもの母親であるチャマ・タバブさんは、笑顔で話してくれました。「汚れた水を飲まざるをえないために、私たちは病気に苦しみました。下痢、腹痛、嘔吐の症状が、とくに子どもたちの間に多くみられました。WVJの支援により浄水システムが設置され、とても感謝しています」とベイドさんも語りました。



タバブさん

皆さまのご支援により、WVJは南スーダンの紛争に影響を受けた地域で緊急援助を行い、9月中旬までに約42万人の命を支えました。

ソマリアのHIV/エイズに 苦しむ子どもたちのために

ソマリア



支援地域の状況

ソマリアにあるソマリランドは、アフリカ東端に位置し、1991年5月より事実上独立国家として機能しています。

国連合同エイズ計画の報告によると、ソマリランドのHIV感染率は、現在、人口400万人の1.4%と近隣国と比較して低いのですが、感染率の高い国に囲まれていること、結核や性感染症の感染率が増加していることから、今後HIV感染も拡大するとされています。要因は、感染の有無を検査する技師やカウンセラー、エイズの治療薬を処方できる医療従事者や施設が不足していること、一般の人々のHIV/エイズについての基礎知識がとても少ないことなどがあげられます。

国内でHIV感染が確認されて以来、家族が感染したり、自身母親から感染するなど約9万人の子どもたちがHIV/エイズの影響の下で生活しています。15歳以下の子ども10人に1人が、HIV/エイズにより片親もしくは両親を失くして遺児となっています。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

皆さまからの募金と、世界基金の資金協力を受けたユニセフからの助成金により、ソマリランドで、HIV/エイズの影響下で生きる人々に対し、自発的にHIV感染の有無を知るための検査やカウンセリングを受けることができる施設、また、性感染症の感染の有無を検査する施設、計6カ所の施設の活動を通して、次のような支援を行いました。

■2,046人(女性1,423人、男性623人)を対象にカウンセリングとHIV検査を、1,397人(女性946人、男性623人)にカウンセリングと性感染症検査を実施しました。これらを通して人々が自分の感染の有無を知ることができ、感染していた場合正しく対処できるようになりました。

■施設に勤務する保健省の看護師がHIV/エイズについての正しい知識を身につけるため、医療施設などで、100回以上の研修を実施しました。また、専門的な知識を持たない助産師や地域の保健専門家を対象にHIVの母子感染の予防などについて研修を実施しました。

■HIVとともに生きる人々や厳しい貧困にあるなど立場の弱い子どもたちをサポートしました。例えば、HIV検査で感染が判明した人々に、医療施設で治療を受けるための交通費を支援しました。

■HIVとともに生きるとくに貧しい人々や子どもたちに、食糧、生活用品や学用品など、それぞれの必要に応じて配布しました。

支援により、HIV/エイズの影響下にある人々が、日々の生活で正しくHIV/エイズに対応でき、希望を持って未来に向かうことができるように貢献することができました。



HIV/エイズに関する正しい知識、特にHIVの母子感染予防に関する研修に参加する助産師と地域の保健専門家



カウンセリングとHIV検査を待っている間に保健教育を受講する女性たち

現地事業担当者ハンナ・マックラファルティより

皆さまからの支援により、地域に変化がもたらされていることを、感謝いたします。住民が少しずつ自発的にカウンセリングやHIV検査を受けるようになったこと、また施設の職員が、医療施設の看護師と連携して働くようになったことを確認できました。しかし、HIVに感染した場合の不安に

より、多くの住民が今でもカウンセリングや検査を受けることを恐れているという現実も再確認しました。活動が継続的に実施されるためには看護師がカウンセリングについて研修を受けることも不可欠です。今後さらなる変化を確認できることを期待しています。

マラリアの危機に さらされる子どもたちのために

コンゴ民主共和国



支援地域の状況

コンゴ民主共和国は、世界で最も貧しい国の一つで、医療施設や医療サービスが十分に整備されていないため、毎日400人の子どもが亡くなっていると報告されています。子どもの死因のほぼ半数を占めるのがマラリアです。

マラリアの予防には、殺虫剤を混入させた繊維で織られた蚊帳の使用が最も効果的といわれていますが、交通機関が整備されていない地域が多く、輸送網が十分でないなどの理由で、蚊帳が普及していません。また、医療施設も、マラリア治療のために必要な薬も不足していて、人々は適切な治療を受けることが困難です。

ワールド・ビジョン・ジャパンの活動

WVJは、皆さまから募金と、世界基金から資金協力を受けたコンゴ農村保健機構からの助成により、カタンガ州の4地域、赤道州の15地域において、次のようなマラリア対策支援を実施しています。

■医療施設に産前・産後健診を受けるために通う妊産婦を対象に、防虫剤を練り込んだ蚊帳32,198張を、1歳未満の乳幼児対象に40,328張を配布しました。

■マラリアの疑いのある患者176,031人の検査を行い、127,001人にマラリアの治療を行いました。

■公共の場でマラリア予防についての啓発活動を9回行いました。4地域で、蚊帳の使用を促すラジオ・スポットを240回放送しました。また家庭訪問を実施し、直接人々にマラリア予防の説明を行いました。その後、これらの啓発がどれほどの効果があったのかを確認するために、蚊帳の使用状況などの調査を実施し、その有効性を確認しました。

事業終了後も医療施設で継続してマラリア予防の啓発活動を行っていくことができるように、地域の保健専門家の能力強化を行います。



WVJの支援で、子どもにマラリアの治療を受けさせるアンジェラ・コタロさん(23歳)

●募金についての問い合わせは 〒164-0012 東京都中野区本町1-32-2 ハーモニータワー3F
電話:03-5334-5351 FAX:03-5334-5359
Eメール:dservice@worldvision.or.jp <http://www.worldvision.jp>

ワールド・ビジョンは、キリスト教精神に基づいて開発援助、緊急人道支援、アドボカシー(政府や市民への働きかけ)を行う国際NGOです

<http://www.worldvision.jp>